

授業科目	整形外科学 手の外科専門医（講義・演習、演習・実習）（臨床専門医コース）		
取得する専門医の名称	日本整形外科学会専門医、日本手の外科学会専門医		
区分・単位	講義・演習 2単位 演習・実習 4単位	関連分野等	微小外科（マイクロサージェリー）
年次・期別	1年次～2年次	曜日・時限	講義・演習 月・火 PM6:00～ 演習・実習 月～金 終日
教室	整形外科学研究室	担当者電話番号	086-235-7273
担当教員	【研究科】教授：尾崎敏文， 【病院】准教授：西田圭一郎，助教：野田知之，助教：島村安則		
一般目標	運動器疾患・手の外科疾患に関する幅広い学識と高度な専門技能を修得し、急性期治療からリハビリテーションまで対応できる診療能力・技術を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本整形外科学会専門医制度規則に則って整形外科学を修得・理解し、専門医試験に合格する能力を大学院終了までに獲得する。</li> <li>2、上肢・手の機能解剖を理解し、臨床に応用できる。</li> <li>3、上肢・手の外傷における局所症状の診断・治療技術につき理解する。</li> <li>4、小児先天異常について理解し、その治療時期、方法などについて理解する。</li> <li>5、マイクロサージェリーによる四肢再接着・再建についてその手技の実践ができる。</li> <li>6、整形外科学、手の外科の臨床研究を理解でき、自ら研究を施行し、大学院終了時までには博士論文が専門分野の国雑誌に掲載あるいは受領される。</li> </ol>		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 整形外科学、手の外科学講義（講義・演習）（尾崎，西田，野田，島村） 整形外科学ならびに手の外科学に関わる総論ならびに各論を学習する。手の機能解剖にもとづいた臨床診断学、画像診断学や初期治療から手術的治療、リハビリテーションを中心に学習する。</li> <li>2) 整形外科外来・手の外科外来での初期診療・初期治療能力の習得（臨床実習）（演習・実習）（尾崎，西田，野田，島村） 指導医のもとで整形外科学および手の外科学に必要な初期診療能力、初期治療技術を習得する</li> <li>3) 整形外科手術、手の外科手術の施行（臨床実習）（演習・実習）（尾崎，西田，野田，島村） 指導医のもとで日本整形外科学会専門医試験の受験資格に定められた症例数以上の手術を施行して手技を習得する。また並行して日本手の外科学会の定める専門医取得に必要な手の外科学的専門性の高い手術も施行して手技を習得する。</li> <li>4) 症例検討会（演習）（講義・演習）（尾崎，西田，野田，島村） 毎週火曜・木曜日朝の全体症例検討会、毎月一回開催される関連病院も含めての手の外科カンファレンスに参加して整形外科学・手の外科学を学ぶ。</li> <li>5) 各種セミナー（演習）（講義・演習）（尾崎，西田，野田，島村） 毎月二回開催されるベーシック・リサーチ・カンファレンスに参加し各種研究のデザイン・検証過程を学ぶと同時に、自らの研究についても発表する。また学会や専門医会の主催する様々なセミナーや研究会に参加して整形外科基礎・臨床のベーシックから最先端まで幅広く学習する。手の外科学に関連したセミナー（日本手の外科学会併催の研修会、A0 コースなど）にも参加し学習する。</li> <li>6) 学会参加（講義・演習） 日本整形外科学会学術総会、日本整形外科学会基礎学術集会、日本手の外科学会に参加し見識を深める。また大学院終了時までにはこれらの学会で2回以上の発表を行う。これに加えて手の外科に関連した学会などにも積極的に参加し、地方会も含めて2回以上の発表を行う。またアメリカ整形外科学会、アジア・パシフィック整形外科学会、国際手の外科学会などの海外学会においても1回以上の発表を行う。</li> </ol>		
テキスト・参考書等	整形外科学関連の論文、教材を自主的に検索し、最新の知識を習得する。		
成績評価基準 成績評価方法	講義・演習への参加状況、診療活動での貢献、および演習・実習での成果を総合的に判断する。		
研究活動との 関連	習得した知識・技術を、整形外科学・手の外科学の臨床研究に応用する。		

基礎実習	小動物を使用したマイクロサージェリー実習を随時行う。
臨床実習	臨床実習はアシスタントより開始し、技術水準に到達次第実習を行う。
症例検討会	症例検討会は毎月第2水曜日に行う。
講義日程	<p>講義は、毎月第2水曜日に行う。講義内容は以下に示すとおりである。なお、変更の場合は登録大学院生に事前に通知する。</p> <p>4月：手の機能解剖学  5月：手の外科的治療の基本原則  6月：新鮮外傷、骨関節損傷  7月：腱損傷  8月：抹消神経損傷  9月：絞扼性神経障害  10月：拘縮  11月：RA 変形に対する手術的加療  12月：先天異常  1月：運動再建  2月：上肢のスポーツ障害  3月：マイクロサージェリー</p>
本年度参加が望ましい学会等	<p>日本手の外科学会  日本マイクロ学会  中四手の外科症例検討会</p>